

「山田錦最適作期決定システム」の開発と「移植日マップ」の作成

酒米「山田錦」の出穂期以後の高温を回避でき、酒造りにも適する田植え日を予測できる「山田錦最適作期決定システム」を作成した。さらに、見やすいように田植え日を表示した地図である「移植日マップ」を作成し、営農相談の現場において利用が始まっている。

内容

本システムは、山田錦の主な産地であるJA営農指導員及び普及指導員等に配布しており、営農相談業務（山田錦の高温障害回避）に利用可能である。推計したいほ場をパソコンの地図上で指定すれば、過去の平均気温データ（平年値）と地形要因を反映させたほ場ごとの田植え日を把握できる（図1）。

三木市吉川町のエリアで田植え日を推計すると、6月3日から11日の範囲となる。この地域の栽培暦では6月5日頃を代表日としているが、本システムでは谷筋などの詳細な地形要因が反映できるので、ほ場単位で田植え日を詳細に提示できる。そのため、本システムは個々の農家向けの田植え日暦としても活用できる。

そこで、田植え日を見やすくするために、背景図に航空写真を利用して、集落名及びその境界線を表示した田植え日の等値線地図である「移植日

マップ」を作成し、酒米農家に配布した（図2）。

「移植日マップ」は、予測された同一の田植え日を等値線で結んでおり、パソコン画面を介して田植え日を特定する場合と比べ、現場からは、(1)一覽して確認できること、(2)栽培暦感覚であること、(3)パソコンがなくても見えることの3点が高く評価されている。

今後の方針

気温や田植え日の予測について、より精度の高い手法の検証を行い、精度の向上を図る。

加藤 雅宣（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2410）



図1 システムの入力画面と出力結果（例示）



図2 三木市吉川町の移植日マップ中苗（例示）